

# LNG確保など課題 需給ひっ迫の再発防止策

## エネ庁

資源エネルギー庁の電力・ガス基本政策委員会(小委員長川内弘隆)は17日、今冬の電力需給ひっ迫の再発防止策を議論した。季節ごとの需給検証の際には、電力不足の懸念が生じた場合、発電事業者がLNGなど火力燃料を積極的に調達する仕組みを制度化するかどうかが焦点となる。

現在、エネ庁と電力広域的運営推進機関が連携して、夏冬の需給ひっ迫を防止し、必要に応じて、夏冬の需給調整が開始される。このため、電力需給ひっ迫の再発防止策を議論した。季節ごとの需給検証の際には、電力不足の懸念が生じた場合、発電事業者がLNGなど火力燃料を積極的に調達する仕組みを制度化するかどうかを議論した。

検査の実効性を高めるには、発電事業者のLNG在庫量などを把握する必要があるが、電気事業者連合会は「燃料在庫は機密情報で、慎重な検討が必要」と発言し、予防線を描いている。

安定供給確保に不安がある判断された場合、エネ庁は共同調達や備蓄などによる共同確保を発電事業者に求めることを一案として提示した。これに対し、池田会長は「需給ひっ迫が回復している」という。1月15日に起こった関西電力の大飯原発1号機(出力1万5000キロワット)がその後、定格出力での運転に至ったこと、供給力確保の面で、一非特助助だったと指摘した。

30年、ガスと再エネで安定供給、経済性問題なし

自然エネルギー財団は、電力需給が確保できることを確認した。関西電力の大飯原発1号機(出力1万5000キロワット)がその後、定格出力での運転に至ったこと、供給力確保の面で、一非特助助だったと指摘した。

9電 家庭用DR実証を開始

九州電力とE&Pは16日、家庭用デマンドレスポンス(DR)実証を開始した。面談が共同でDR実証を行うのは初めて。スマートグリッド実証日時を通知し、節電や需量削減に応じて顧客にポイントを進呈する。1万人の参加者を目標とする。九州電力送配電から取得する30分毎の電力データとS&Bが、節電した分をAI(人工知能)の需要予測を活用し、節電(下げDR)と需要創出(上げDR)を検証する。

# 銚子市ゼロカーボン表明

千葉県銚子市とLoop、再生可能エネルギーの導入促進に向けて、連携を図ると発表した。銚子市の中学校など公共施設へ再生可能エネルギーを供給し、ゆめくはエネルギー・マネジメントシステムを活用したエネルギーの地産地消を行う予定だ。これに合わせ、銚子市は、2050年までに二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ銚子」を表明した。

# Loop 再エネ電力を中学校へ



一般家庭を含めた市内の低圧定価買取制度(FIT)における促進区域に指定され、再生可能エネルギーの導入促進を図ると発表した。銚子市の中学校など公共施設へ再生可能エネルギーを供給し、ゆめくはエネルギー・マネジメントシステムを活用したエネルギーの地産地消を行う予定だ。これに合わせ、銚子市は、2050年までに二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ銚子」を表明した。

30年、ガスと再エネで安定供給、経済性問題なし

自然エネルギー財団は、電力需給が確保できることを確認した。関西電力の大飯原発1号機(出力1万5000キロワット)がその後、定格出力での運転に至ったこと、供給力確保の面で、一非特助助だったと指摘した。

9電 家庭用DR実証を開始

九州電力とE&Pは16日、家庭用デマンドレスポンス(DR)実証を開始した。面談が共同でDR実証を行うのは初めて。スマートグリッド実証日時を通知し、節電や需量削減に応じて顧客にポイントを進呈する。1万人の参加者を目標とする。九州電力送配電から取得する30分毎の電力データとS&Bが、節電した分をAI(人工知能)の需要予測を活用し、節電(下げDR)と需要創出(上げDR)を検証する。

中部電 福井でバイオ発電事業

中部電力は16日、福井県敦賀市でバイオマス発電事業に参画すると発表した。丸紅グループの発電事業会社、社教グループのパワーエの株式の50%を取得した。同社は発電出力3万7000キロワットの木質燃料バイオマス発電所(写真)を運営している。中部電力は2030年頃に200キロワット以上の再生可能エネルギーの開発目標を掲げ、再生可能エネルギーの導入促進を図ると発表した。

# 改正FIT法、詳細決定

## FIP、未稼働失効制度など

資源エネルギー庁の「フィード・イン・プレミアム」(FIT)に基づく再生可能エネルギー大規模導入・次世代電力ネットワークの運用開始に向け、省エネルギー小委員会と再生可能エネルギー小委員会による改正FIT法の検討が進められている。改正FIT法は、FIP(固定価格買取制度)に替わる

DR新サービス開始

分散リソースの取引仲介

ENECHANGEは9日、自家発電や大型蓄電池など設置された非常用の設備を有効活用し、電力需給ひっ迫時の調整力として有効活用する「分散リソース」を提供するサービスを開始した。

中部電 福井でバイオ発電事業

中部電力は16日、福井県敦賀市でバイオマス発電事業に参画すると発表した。丸紅グループの発電事業会社、社教グループのパワーエの株式の50%を取得した。同社は発電出力3万7000キロワットの木質燃料バイオマス発電所(写真)を運営している。中部電力は2030年頃に200キロワット以上の再生可能エネルギーの開発目標を掲げ、再生可能エネルギーの導入促進を図ると発表した。

九州電力とE&Pは16日、家庭用デマンドレスポンス(DR)実証を開始した。面談が共同でDR実証を行うのは初めて。スマートグリッド実証日時を通知し、節電や需量削減に応じて顧客にポイントを進呈する。1万人の参加者を目標とする。九州電力送配電から取得する30分毎の電力データとS&Bが、節電した分をAI(人工知能)の需要予測を活用し、節電(下げDR)と需要創出(上げDR)を検証する。

中部電力は16日、福井県敦賀市でバイオマス発電事業に参画すると発表した。丸紅グループの発電事業会社、社教グループのパワーエの株式の50%を取得した。同社は発電出力3万7000キロワットの木質燃料バイオマス発電所(写真)を運営している。中部電力は2030年頃に200キロワット以上の再生可能エネルギーの開発目標を掲げ、再生可能エネルギーの導入促進を図ると発表した。

九州電力とE&Pは16日、家庭用デマンドレスポンス(DR)実証を開始した。面談が共同でDR実証を行うのは初めて。スマートグリッド実証日時を通知し、節電や需量削減に応じて顧客にポイントを進呈する。1万人の参加者を目標とする。九州電力送配電から取得する30分毎の電力データとS&Bが、節電した分をAI(人工知能)の需要予測を活用し、節電(下げDR)と需要創出(上げDR)を検証する。

資源エネルギー庁の「フィード・イン・プレミアム」(FIT)に基づく再生可能エネルギー大規模導入・次世代電力ネットワークの運用開始に向け、省エネルギー小委員会と再生可能エネルギー小委員会による改正FIT法の検討が進められている。改正FIT法は、FIP(固定価格買取制度)に替わる

DR新サービス開始

分散リソースの取引仲介

ENECHANGEは9日、自家発電や大型蓄電池など設置された非常用の設備を有効活用し、電力需給ひっ迫時の調整力として有効活用する「分散リソース」を提供するサービスを開始した。

中部電 福井でバイオ発電事業

中部電力は16日、福井県敦賀市でバイオマス発電事業に参画すると発表した。丸紅グループの発電事業会社、社教グループのパワーエの株式の50%を取得した。同社は発電出力3万7000キロワットの木質燃料バイオマス発電所(写真)を運営している。中部電力は2030年頃に200キロワット以上の再生可能エネルギーの開発目標を掲げ、再生可能エネルギーの導入促進を図ると発表した。

九州電力とE&Pは16日、家庭用デマンドレスポンス(DR)実証を開始した。面談が共同でDR実証を行うのは初めて。スマートグリッド実証日時を通知し、節電や需量削減に応じて顧客にポイントを進呈する。1万人の参加者を目標とする。九州電力送配電から取得する30分毎の電力データとS&Bが、節電した分をAI(人工知能)の需要予測を活用し、節電(下げDR)と需要創出(上げDR)を検証する。

中部電力は16日、福井県敦賀市でバイオマス発電事業に参画すると発表した。丸紅グループの発電事業会社、社教グループのパワーエの株式の50%を取得した。同社は発電出力3万7000キロワットの木質燃料バイオマス発電所(写真)を運営している。中部電力は2030年頃に200キロワット以上の再生可能エネルギーの開発目標を掲げ、再生可能エネルギーの導入促進を図ると発表した。

九州電力とE&Pは16日、家庭用デマンドレスポンス(DR)実証を開始した。面談が共同でDR実証を行うのは初めて。スマートグリッド実証日時を通知し、節電や需量削減に応じて顧客にポイントを進呈する。1万人の参加者を目標とする。九州電力送配電から取得する30分毎の電力データとS&Bが、節電した分をAI(人工知能)の需要予測を活用し、節電(下げDR)と需要創出(上げDR)を検証する。

中部電力は16日、福井県敦賀市でバイオマス発電事業に参画すると発表した。丸紅グループの発電事業会社、社教グループのパワーエの株式の50%を取得した。同社は発電出力3万7000キロワットの木質燃料バイオマス発電所(写真)を運営している。中部電力は2030年頃に200キロワット以上の再生可能エネルギーの開発目標を掲げ、再生可能エネルギーの導入促進を図ると発表した。

九州電力とE&Pは16日、家庭用デマンドレスポンス(DR)実証を開始した。面談が共同でDR実証を行うのは初めて。スマートグリッド実証日時を通知し、節電や需量削減に応じて顧客にポイントを進呈する。1万人の参加者を目標とする。九州電力送配電から取得する30分毎の電力データとS&Bが、節電した分をAI(人工知能)の需要予測を活用し、節電(下げDR)と需要創出(上げDR)を検証する。

中部電力は16日、福井県敦賀市でバイオマス発電事業に参画すると発表した。丸紅グループの発電事業会社、社教グループのパワーエの株式の50%を取得した。同社は発電出力3万7000キロワットの木質燃料バイオマス発電所(写真)を運営している。中部電力は2030年頃に200キロワット以上の再生可能エネルギーの開発目標を掲げ、再生可能エネルギーの導入促進を図ると発表した。

書籍案内

カーボンニュートラル 実行戦略

電化と水素、アンモニア

戸田直樹/矢野隆志/塩沢文朗 著

3月上旬刊行

「具体策」はこれだ!

2050年の脱炭素社会に向けた

カーボンゼロの衝撃

百家争鳴の業界事情を探る

迫られるエネ産業の構造転換

道のり険しく業界別に温度差も

実質ゼロは夢物語なのか?

業界関係者が語る本音の話

原子力カリバイバルプラン

国産技術で挑む水素社会

脱炭素時代へ広がる可能性

月刊 エネルギーフォーラム 3月号

定価1340円

お申し込みは 03-5565-3500 または https://energy-forum.co.jp

Books

LNG Outlook2020

〈天然ガス貿易データ総覧〉

～国内外のあらゆるLNG資料をわかりやすくビジュアル化～

編者:吉武博二・大矢一正 編集協力:奥田 誠 A4判・720頁 定価19,800円(税込)

バイオマス熱利用の飛躍的拡大を目指す

実務で使うバイオマス熱利用の理論と実践

特定非営利活動法人農都会議 編 B5判・160頁 定価 3,300円

商品は「日本工業出版ウェブサイト」でご購入下さい。 https://www.nikko-pb.co.jp/

日工技術セミナー オンライン受講対応 (Webex 使用)

プラント配管解析の基礎と事例 開催日 3月17日(水)・18日(木) 受講料 65,000円(税込)

プラントにおける振動診断技術と事例紹介 開催日 3月19日(金) 受講料 38,500円(税込)

放射線透過法による検査事例と適用機器 開催日 3月22日(月) 受講料 38,500円(税込)

規格に基づく圧力設備の健全性評価 開催日 3月26日(金) 受講料 38,500円(税込)

一疲労・クリープ・減肉評価と検査

防爆電気機器検定の最新動向 開催日 3月30日(火) 受講料 33,000円(税込)

※お申込み・詳細はホームページをご覧ください。 〒113-8610 東京都文京区本駒込6-3-26 sale@nikko-pb.co.jp